



# 学校だより

2月号 (第577号)

令和6年 1月31日

横浜市立すみれが丘小学校

## 学校教育目標

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづけるすみれっ子〉  
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

## 学校の防災教育

副校長 阿部 一平

新しい年を迎え一カ月が経ちましたが、未だ厳しい状況が続く能登半島の被災地のニュースに心を痛めていらっしゃる方も多いと思います。この度の震災を子どもたちがどのように受け止めているか気になりましたので、数名の子どもたちに直接話を聞いてみました。6年生の児童の一人は「中学生が家族と離れて集団で離れたまちに移らなくてはいけないのは、とてもつらいし、自分では耐えられないと思う」と、自分と年齢が近い被災地の生徒への思いを口にする子がいました。また、中学年のある児童は、「もし地震があったらと思うととても怖い。テレビから警報の音が聞こえると体がびくつとする」と訴えていました。

学校教育では、「防災を含む安全に関する教育」を様々な教科・領域で行うことになっています。本校でも、学校行事や学級活動の中の避難訓練を中心に、社会科や理科など教科の中でも学ぶ機会を設けています。例えば4年生の社会科では地域での防災活動について調べたり、高学年では地域で起こりうる災害を想定し、自分たちにできることを考えたりする活動を行っています。

1月22日には、これまでに学習してきた地震による火災発生時の避難のしかたを思い出し、とっさに対応ができる実践力を養うことを目的とした「予告なし」の避難訓練を実施しました。校庭で遊んでいた児童の警報後の様子を見てみると、校舎からはさっと距離をとり、静かに校庭の中央に集まってしゃがんでいる姿がありました。どの子どもとても落ち着いて行動することができました。訓練中ではありましたが、さすがすみれっ子だと感心しました。



▲1月22日の中休みの防災訓練で、校庭の中央に集まって一次避難する児童。

「訓練は本番のように、本番は訓練のように」1月号の巻頭言にもありましたが、これは、学校長が訓練後に繰り返し子どもたちに伝え続けているメッセージです。常に真剣に訓練を続けることで、いざというときに自然と身を守る動きができ、命を守る行動につながります。

いうまでもなく、災害発生時、まずは自分の身を自分で守ることが一番重要です。次に、自分の安全を確保した人たちの助け合いが大きな力になります。防災教育を通して、今後も自分で行える備えと行動について、一人ひとりが自分ごととして捉え、視野を広げて考えることができる力を育ててまいります。

### <災害時の児童の安否確認>

東日本大震災の際、福島県のある市では、子どもたちとご家族の全数把握を唯一できたのがその地域の小学校だったという事実を聞きました。本校でも昨年6月に安否確認のテストメールを実施いたしましたが、大規模な震災発生時等には、可能な限り迅速にメール配信システム等を活用し、児童の安否確認を行ってまいります。 ※安否確認メールについては、円滑に運用していくために適宜テスト配信を行ってまいります。